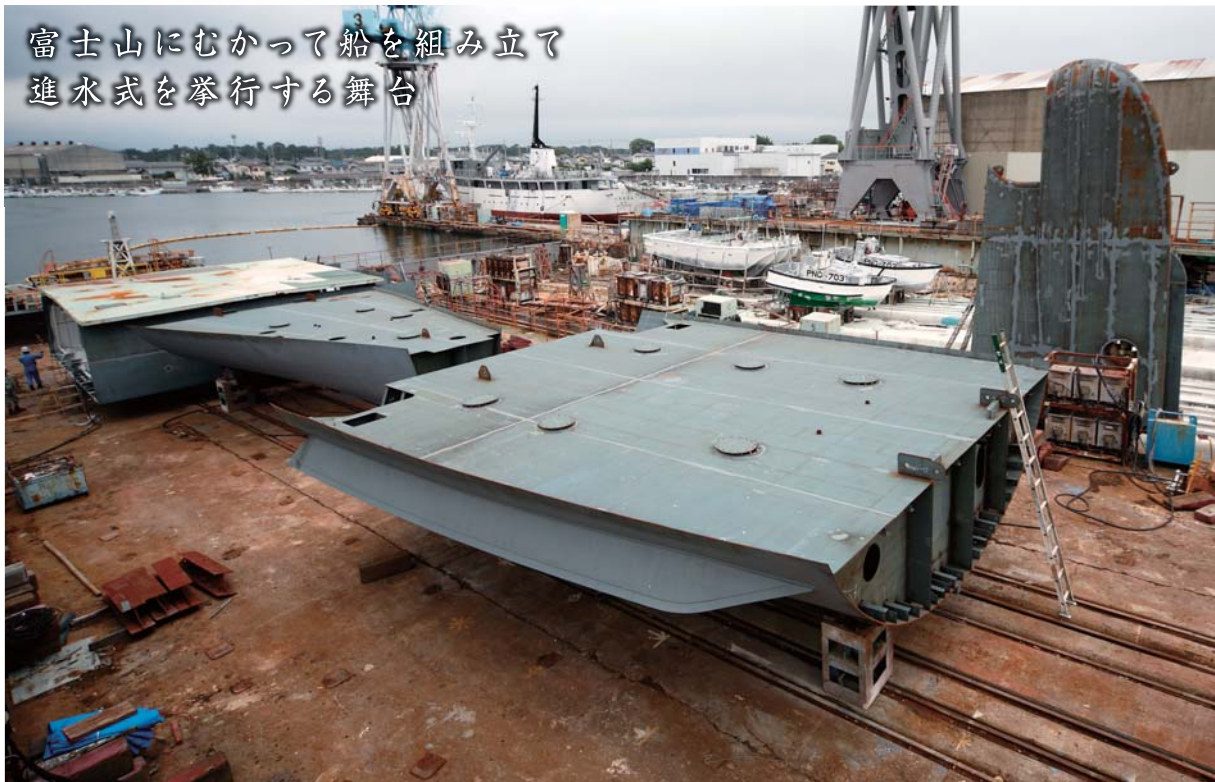


このコーナーでは、静岡の企業が有する隠れた地域産業史的な建造物や文化財などを掘り起こし、紹介します。

## 富士山にむかって船を組み立て 進水式を挙げる舞台



創業以来1450隻を送り出した新造船台(第2船台)

同社の漁船造船技術は、手づくりの職人技術に合理的な鋼船建造技術を融合し、発展させたもの。船主の意見をくみとって希望通りの船をつくれるよう、16名の設計者がオーダーメイドの技術を蓄積してきました。この技術を伝承するため、若い後継者の養成に力を入れています。

130名が働く同社の工場では、設計図をもとにNCで、一部は現場にて原尺の型を作製し、これをもとに鋼板を切断。プレスで曲げ加工した鋼板を船殻ブロックに組み立てます。この船殻ブロックをクレーンで船台に移動して組み立て、主機関、主要機器を搭載すると、進水式を挙行します。

新造船台は、富士山にむかって船が進水する形で設けられており、ここから進水した千隻以上の造船の歴史が感じられます。

昭和11年には現在地に工場を移転。その後、太平洋戦争中は海軍の管理工場となり、戦後は注文激減による人員整理を迫られたり、昭和30年及び平成8年の経営危機を乗り越えて、今年で創立92周年。また、平成8年までは三菱重工から役員・技術者を50名程受け入れており、技術革新と生産性向上に努力した歴史もあります。

この間の新船建造実績は1450隻で、その70%が遠洋漁船。漁船は、魚を獲る道具。船は小さいですが、建造物・乗り物及び輸送としての機能の他、魚を獲るための機器、保存するための設備を必要とします。

(株)三保造船所は、大正8年(1919)6月13日、資本金3万円で三保真崎海洋科学博物館の内海寄りに設立。創業者の植田猪吉氏の家は代々、御前崎で木造船を建造していましたが、漁船の大型化と魚市場の鉄道沿線港湾への移転に対応して、清水港での造船を決断。

昭和11年には現在地に工場を移転。その後、太平洋戦争中は海軍の管理工場となり、戦後は注文激減による人員整理を迫られたり、昭和30年及び平成8年の経営危機を乗り越えて、今年で創立92周年。また、平成8年までは三菱重工から役員・技術者を50名程受け入れており、技術革新と生産性向上に努力した歴史もあります。



本社全景

株式会社 三保造船所  
静岡市清水区三保3797番地 TEL.054-334-5211  
<http://www.mihozosen.co.jp/> ※工場見学を受け入れています。



日本丸(海外まき網漁船)  
竣工:平成18年9月29日  
船主:株式会社 日本丸  
総トン数:744トン  
シップ・オブ・ザ・イヤー2006  
特殊船舶部門最優秀部門賞受賞



やいづ(実習船)  
竣工:平成21年6月1日  
船主:静岡県  
総トン数:559トン